

IGSインドネシア支部(ina-IGS)の発足祝賀会とジオシンセティック技術の適用に関するシンポジウムに出席して

IGS日本支部長 福岡 正巳

国際ジオテキスタイル学会のRowe会長の方針のひとつとして、支部活動の活性化と言うのがある。それにともなって新しい支部の設立が求められている。アジア地区では日本支部が早く設立された後、東南アジア(シンガポール)、インド、中国に支部ができた。1992.11月にインドネシア支部の設立が認められた。その発会式の機会にジオシンセティック技術の適用に関するシンポジウムが、1992.11.23-24にジャカルタのホテル、インドネシアで開催された。基調講演はSoehoed(元建設大臣)、R. K. Rowe(IGS会長)、B. B. Beoms(前ISSMFE会長)、福岡(元ISSMFE会長)が行った。参加したのは東南アジアの他、アメリカ、カナダ、ブラジル、エジプト、イギリス、オランダ、ポーランド、などで、約200名であった。

第一部会は試験と性質である。イリノイ工科大学のJ. B. Budimanはせん断箱を用いた摩擦試験、透水試験についてアメリカの方法を紹介した。ポーランドのK. Klosekは鉄道の枕木の基礎に直径約35cmのソーセイジ状の砂袋を取り付けて補強したものに繰り返し荷重をかけて試験し、現場の適用についても報告した。

第2部会は一般の適用である。インドのM. C. S. Kumarはバンガローと言う大都会では廃棄物の投棄による地下水の汚染を防ぐために、ジオメンブレンを用いた貯蔵庫の試験をしていると報告した。P. R. Rankilorはインドネシアで岸壁の護岸、軟弱地盤上の盛り土補強に使用された例について述べ、埋め立て工事の仮締切にジオテキスタイルを使うことを提案した。マレーシアのC. T. Tohは錫の軟弱な鉱さい堆積の処理にジオテキスタイルを使った例を報告した。

第3部会は補強盛り土である。AITのD. T. Bergadoは室内試験と解析で土とジオテキスタイルの摩擦機構を研究した。エジプトのA. E. Difはドイツに留学してFEM解析を研究し、補強土擁壁の変形、補強材に働く張力の解析を行った。フランスに留学したと思われるインドネシアのH. Hardiyatmoは補強土擁壁に載荷し破壊を起こさせた試験に就いて報告した。これはIS-Kyushuで発表されたものと同じである。

第4部会は排水と濾過である。フランスに留学中と思われるインドネシアのK. B. Suryoelonoはvertical drainのドレーン材の室内試験を行った。心材の突起を変えて比較した。インドネシアのT. J. Gouwはドレーン材の室内試験では単一材は複合材よりも劣っているとされているが、現場で試験した結果、決して劣っていないということが分かったと報告した。マレーシアのF. H. Aliは複合材の排水に関して比較試験を行った。マレーシアのLoke Kean Hooiは不織布を護岸に用いた場合の目詰まりについて試験した。ブラジルのL. A. S. Seraphimは運動場の芝生の排水をよくするために、4種類の織布を敷いて比較する試験を行った。

インドネシアに於いてはまだ適用例が少なく、研究も進んでいないが、外国の技術を取入れ、急速に発展がなされるものと期待できる。